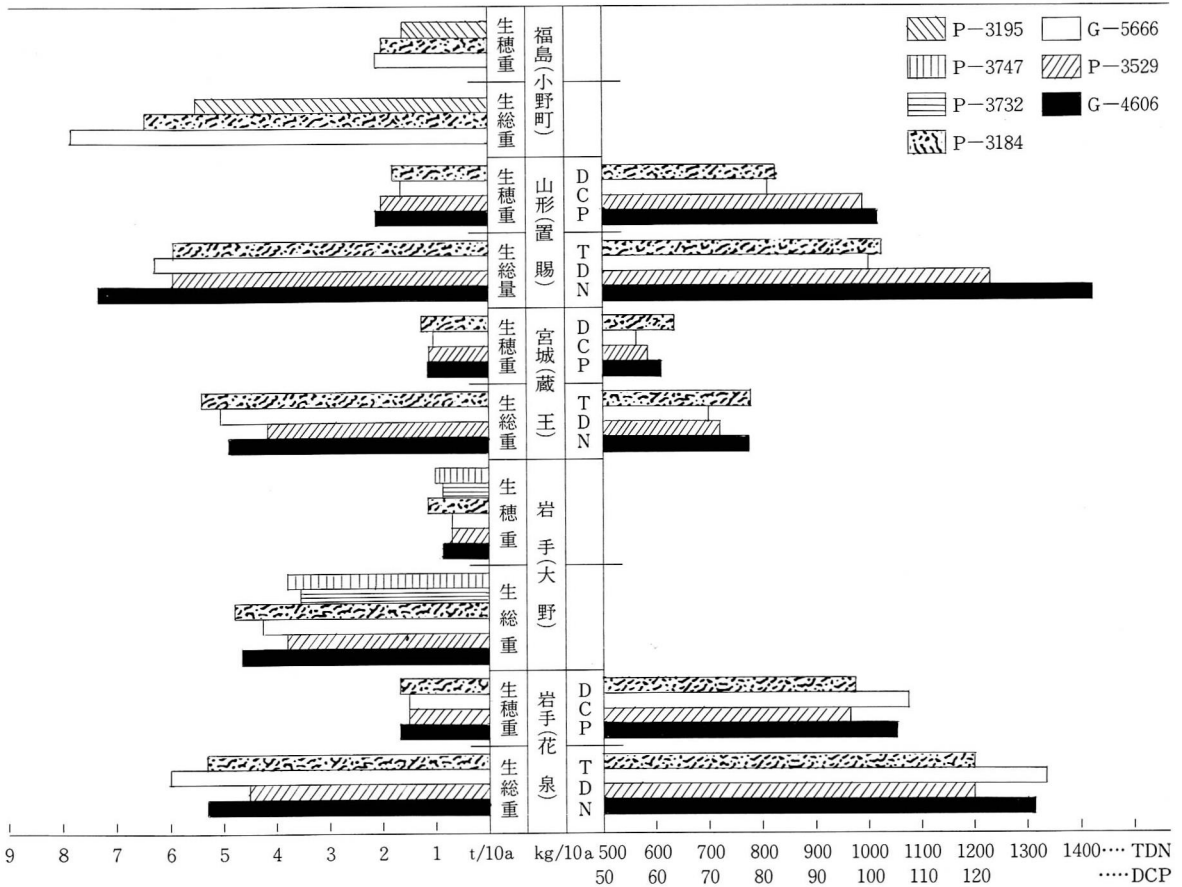


東北地方雪たね畜産研究会 飼料用F₁トウモロコシ試験成績抜粋

——収量に関する地域性、系統間差——

昭和55年 千葉研究農場・東北事業部

成績概要



結果及び考察

- (1) 昭和55年は冷害年であり、地域性及び系統で収量性に大きな差が認められた生穂重・生雌穂重に対し、TDN、DCPでより地域間差が拡大し、冷害の悪影響は子実の登熟度合、子実収量性に強くあらわれていると判断された。
- (2) 本年の試験結果から、気象条件に恵まれる福島(小野町)、山形(置賜)、岩手県南(花泉)は2号クラスの栽培が可能であり、宮城(蔵王)、岩手県北(大野)、青森(東北町)等は1号クラスが中心となり、微気象・標高差を加味し、A号クラスとの品種配分が必要と考えられた。
- (3) 本成績は試験系統について抜粋とりまとめたものであるが、試験を実施された生産者諸氏の新しい品種への要望は極めて強く、今後の試験の積み重ねの中から東北地方に適した品種を早くお届けして行きたいと意を強くした次第です。